
平成30年度予算第二特別委員会質問要旨

○ 局別審査

平成30年3月5日

質問者（質問順）

- 1 有村俊彦委員（民進党）
- 2 加納重雄委員（公明党）
- 3 河治民夫委員（共産党）
- 4 草間剛委員（自民党）

水道局

局 別 審 査

1 有 村 俊 彦 委 員 (民 進 党)

1 平成30年度予算編成について

- (1) 30年度予算編成にあたっての基本的な考え方について伺いたい。
- (2) 純利益65億円を計上できた理由とその所感について伺いたい。
- (3) 累積資金残額の今後の活用について伺いたい。

2 包括外部監査について

(1) 浄水場等の適正な施設規模について

- ア 本市の水源及び浄水場の概要について伺いたい。
- イ 水源から取水できる水量に対する実際の使用水量の割合について伺いたい。
- ウ 小雀浄水場の施設の利用割合について伺いたい。
- エ 施設の余力の考え方について伺いたい。
- オ 将来の適正な施設規模について伺いたい。

(要望) 将来の適正な施設規模について、5水道事業者でしっかり議論していただくことを要望します。

(2) 災害用備蓄材料の管理について

- ア 災害用備蓄材料の管理方法について伺いたい。
- イ 災害用備蓄材料の管理における課題について伺いたい。
- ウ 課題解消に向けた今後の取組について伺いたい。

(要望) 今後もの確に材料管理ができる体制を整え、継続することを要望します。

(3) 横浜ウォーター株式会社の経営基盤強化に向けた取組について

- ア 取締役会の機能強化に向けた取組について伺いたい。
- イ 人員体制の強化に向けた取組について伺いたい。
- ウ 再委託先のリスク管理への対応について伺いたい。
- エ 監査結果を踏まえた経営基盤強化に関する水道局としての考え方について伺いたい。

(要望) 監査の指摘事項に対して、横浜ウォーター株式会社としっかり連携・協力して改善に取り組み、人材の確保・育成による組織体制の強化など、会社の成長へつなげていくことを要望します。

(4) 監査結果全体に対する所感について副市長の見解を伺いたい。

(要望) 今回の監査結果を真摯に受け止め、市民に寄り添った形で水道事業の運営に活かしていくことを要望します。

3 資産の有効活用について

(1) 資産の有効活用における基本的な考え方について伺いたい。

(2) 活用方法が定まらない要因について伺いたい。

(3) 今年度委託した専門コンサルタントの調査結果について伺いたい。

(4) 今後の事業への反映方法について伺いたい。

(要望) 公営企業である以上、地域ニーズ、行政ニーズを考慮した上で、幅広い視野を持って資産の活用を検討していくことを要望します。

4 子どもたちが水道水を飲む文化を育む事業について

(1) 子どもたちが水道水を飲む文化を育む事業の概要と目的について伺いたい。

(2) 事業のこれまでの実績と評価について伺いたい。

(3) 子どもたちが水道水を飲む文化を促進するための今後の考え方について具体的に伺いたい。

(要望) より多くの子供たちに、横浜の水道水に愛着を持ってもらうために、公営企業として費用対効果をしっかりと考えていただき、教育委員会と新たな方策を検討していただくことを要望します。

5 AI活用に向けた調査について

(1) 従来のICT化とAIとの違いの認識について伺いたい。

(2) 調査の対象とする業務について伺いたい。

(3) 今回の調査の進め方について伺いたい。

(4) 水道事業でのAI技術の活用に関する考え方について伺いたい。

(要望) A I の導入にあたっては、ビッグデータを整理するとともに、調査委託先のコンサルタントの知見を最大限に引き出し、単なる効率化に留まらない新たな価値の創造に活用することを要望します。

2 加納重雄委員（公明党）

1 発注・施工時期の平準化に向けた取組について

- (1) 水道局における施工時期等の平準化に向けた取組について伺いたい。
- (2) 年度を跨ぐ工事発注の具体的な内容について伺いたい。
- (3) 今後の年度を跨ぐ工事発注の拡大に向けた取組について伺いたい。
- (要望) 引き続き発注・施工時期の平準化に向けた取組を推進することを要望します。

2 民間事業者と連携した新たな災害時燃料確保について

- (1) 燃料供給に係る安全・安心パートナー制度の概要について伺いたい。
- (2) 燃料備蓄協定の特色について伺いたい。
- (3) 他の水道事業体における燃料備蓄の取組事例の有無について伺いたい。
- (4) 委託契約ではなく協定の形を採る理由について伺いたい。
- (5) 車両用などの燃料についても備蓄の取組を広めるべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) 災害時燃料確保について引き続きしっかり取り組むことを要望します。

3 災害時の飲料水確保対策について

- (1) 地域防災拠点における飲料水確保対策の経緯について伺いたい。
- (2) 耐震給水栓の整備の考え方と効果について伺いたい。
- (3) 耐震給水栓の整備スケジュールについて伺いたい。
- (4) 現在想定している給水車の活用方法について伺いたい。
- (5) 平成24年度に実施した給水車から給水できる地域防災拠点の受水槽の調査について伺いたい。
- (6) 給水車等による応急給水を更に充実させる考え方について伺いたい。
- (7) 災害時における飲料水確保に関する本市の考え方について副市長の見解を伺いたい。
- (要望) 災害時において、給水車から学校の受水槽に給水を行う方法により、応急給水を更に充実させることを要望します。

4 神奈川県内広域水道企業団と本市の連携について

- (1) 神奈川県内広域水道企業団の概要について伺いたい。
 - (2) 本市の平成30年度予算における企業団からの受水量と受水費について伺いたい。
 - (3) 相模原ポンプ場の事故の概要について伺いたい。
 - (4) 相模原調整池の事故の概要について伺いたい。
 - (5) 相模原ポンプ場の事故は、国への報告が義務化されていると聞いているが、それは事実か。事実であれば、国への報告をしなければならない理由について伺いたい。
 - (6) 相模原調整池の事故について、平成27年にも同じような事故があったが、これについて確認しているのか伺いたい。
 - (7) 企業団で事故が発生した際の企業団と本市との連絡体制について伺いたい。
 - (8) 「水道用水供給の実務に関する申合せ書」にある総合情報とは何を指しているのか伺いたい。
 - (9) 相模原ポンプ場の事故における課題と対応について伺いたい。
 - (10) 相模原調整池の事故における課題と対応について伺いたい。
 - (11) 申し合せ書などのルールの改善に関する見解について伺いたい。
 - (12) 市民への安定給水を確保するための企業団に対する本市の関わり方について副市長の見解を伺いたい。
- (要望) 企業団と構成団体との間で、事故時の速やかな情報共有が図られるように、構成団体として企業団にしっかりと意見を申し入れることを要望します。

3 河 治 民 夫 委 員 (共 産 党)

1 水道局における技術継承のための人材確保について

- (1) 水道局の技術職員の年代構成の現状と、なぜ30歳代の技術職員が少ないのか伺いたい。
- (2) 30歳代の技術職員数の落ち込みに対して特別の対策が必要と思うが、どうするのか伺いたい。
- (3) 技術職員の確保のために努力をしてきたことについて、経過も含めて伺いたい。
- (4) 水道局の技術継承の仕組みとして、マスターエンジニア(ME)制度や、テクニカルエキスパート(TE)制度を活用していると聞いているが、どのような仕組みか伺いたい。
- (5) それぞれの活動実績について伺いたい。
- (6) ME資格者を何人養成する計画なのか伺いたい。また、責任職で退職し、再任用のMEとなった職員の処遇について伺いたい。
- (7) 責任職で退職して再任用のTEとなった職員の処遇について伺いたい。
- (8) ME制度は通常業務を行いながら技術継承を行う体制だが、育成者の過度な負担にならないのか、また、どのような対策が講じられているのか伺いたい。
- (9) 西谷浄水場再整備事業においてコンサルタントに委託する考え方について伺いたい。
- (10) 突如新たな整備案が浮上し、現行の整備計画と比較する理由について伺いたい。
- (11) 現行の整備計画で基本設計に要した費用について伺いたい。
- (12) 新たな整備案の基本構想、基本計画及び現行の整備計画との比較に関する検討に要する費用について伺いたい。
- (13) 再整備事業における現行の整備計画と新たな整備案ではどれくらいかかり、その差はどれくらいになるのかについて伺いたい。
- (14) 比較検討に対してコンサルタントはどのように関わるのか伺いたい。
- (15) 中期経営計画の削減計画は、水道局の現状に合っていないのではないかと思うが、削減計画に関わる業務内容と職員数はどうなっているのか伺いたい。

2 小雀浄水場の有効活用と企業団受水について

- (1) 包括外部監査の意見が違ふというのであれば、なぜ議員に報告しないのか伺いたい。
 - (2) 小雀浄水場において更なる稼働率上昇の余地があると思うが、どう考えているのか伺いたい。
 - (3) 企業団の契約量や単価についても協議が必要だと思うが、その考えがないのか伺いたい。
- (要望) 市民に安心して安価な水道水を供給することは大事なことなので、企業団受水の契約量や単価の見直しについて、引き続き追求することを要望します。

3 平成16年に西谷浄水場の敷地一部を民間事業者売却した経緯について

- (1) 売却した水道用地の一部は都市計画道路区域となっているが、民間事業者に売却した経緯について伺いたい。
- (2) 都市計画道路区域内の土地の売却に問題意識はなかったのか伺いたい。
- (3) 現在、転居を要請されている人にどのように説明するのか伺いたい。
- (4) 今回の都市計画道路区域内の土地の売却について副市長の見解を伺いたい。

1 料金体系の在り方検討について

- (1) 水道料金等在り方審議会ですべて具体的に何を検討するのか伺いたい。
 - (2) 今後の水需要の見通しと水需要予測の見直しについて伺いたい。
 - (3) 保有水量に対する実際使用水量についての包括外部監査人の指摘に対する考え方について伺いたい。
 - (4) 水源を共同開発してきた5水道事業者で、未来の水道の在り方について、本気の話し合いをすべきと考えるが、見解を伺いたい。
 - (5) 利害を超えて議論していく上で、その難しさとやり方について伺いたい。
 - (6) 現在の水道局におけるアセットマネジメントの手法について伺いたい。
 - (7) アセットマネジメントは全局横断的かつ民間事業者も入れて多角的に検討していくべきと考えるが、見解を伺いたい。
 - (8) 水道管の直径のダウンサイジングに取り組む理由について伺いたい。
 - (9) 水道管のこれまでの内面塗装と新しい内面塗装の違いについて伺いたい。
 - (10) これまでエポキシ樹脂粉体塗装の管を採用してこなかった理由について伺いたい。
 - (11) 内面塗装材の見直しによる費用対効果とその他のメリットについて伺いたい。
 - (12) 資金調達手法に関する検討結果について伺いたい。
 - (13) 検討結果を踏まえてどのように実践しているか伺いたい。
 - (14) 水道局の財務マネジメントをどう考えているのか副市長の見解を伺いたい。
 - (15) 水道局が包括外部監査を受けることになった経緯について伺いたい。
 - (16) 水道局でI Rの取組の実績があるのか伺いたい。
 - (17) 料金体系の長期的な見通しを示すべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) 水需要予測については、官民データ活用推進条例に基づき、データを活用していきながら、市民の皆さまに分かりやすい情報提供をしていくことを要望します。
- (要望) 料金の在り方を検討していく上で、未来の水道の在り方について、5水道事業者でしっかり議論を進めることを要望します。

(要望) アセットマネジメントは、技術部門と経営部門で融合し、ぜひ全庁的な取組を要望します。

(要望) 料金体系の議論には議会や監査だけでなく市民にも幅広く加わってもらう必要があり、市民に開かれた財務マネジメントを行っていくことを要望します。

(要望) ぜひ未来の横浜市民に対しての責任ある議論を残せるよう、しっかりと取り組むことを要望します。

2 世界的視野で見た工業用水について

(1) 横浜市 of 工業用水の現状と課題について伺いたい。

(2) 工業用水の民間ニーズを世界的な視点で調査していくべきと考えるが、見解を伺いたい。

(3) 世界的な水不足の中で、海外企業の誘致に向けた営業をしていくべきと考えるが、見解を伺いたい。

(要望) 工業用水は、交通アクセスといった他のインフラと同様に、企業誘致のポイントとなる可能性があるので、関係局としっかり連携を図って検討していくことを要望します。

3 横浜ウォーター株式会社について

(1) 横浜ウォーター株式会社に対する評価について伺いたい。

(2) 国内の他事業体からの受注状況と売上高について伺いたい。

(3) 岩手県矢巾町に対する今後の支援について伺いたい。

(4) 国内事業体の支援要請のこれまでの傾向と今後の見込について伺いたい。

(5) 国外の受注状況と売上高について伺いたい。

(6) 増資をするべきと考えるが、見解を伺いたい。

(7) 経営強化のため、最低限、人は増やしていくべきと考えるが、見解を伺いたい。

(要望) 上下水道の知識・技術を有する横浜市の退職職員が横浜ウォーター株式会社で引き続き活躍できるような循環サイクルをつくっていくことを要望します。